
令和5年度

第3次春日井市民病院中期経営計画事業報告書

令和6年10月



春日井市民病院
Kasugai Municipal Hospital

目 次

第 1 節 事業概要	1
第 2 節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比	7
第 3 節 具体的取組の状況	11

第1節 事業概要

春日井市民病院は、健全な経営と医療の質の確保について様々な取り組みを実施していくため、平成21年3月に中期経営計画（公立病院改革プラン）を、平成27年3月に第2次中期経営計画を策定し、令和5年3月には、令和5年から令和9年度までを計画期間とする第3次中期経営計画を策定しました。

令和5年度は、地域の基幹病院として、次の取り組みを進め、持続可能な医療提供体制の確保と医療の質の向上を図りました。

事業面においては、病院を標的としたサイバー攻撃に備え、医療情報のバックアップ体制を構築したほか、令和6年4月1日から医師の時間外労働の上限規制が適用されることに伴い、医師業務の他職種へのタスク・シフト／シェア、勤務体制の整備を進めるとともに、愛知県から特定地域医療提供機関（B水準）及び技能向上集中研修機関（C-1水準）の指定を受けるなど準備を進めました。

施設設備面においては、令和6年5月の開設を目指し、循環器内科医、心臓外科医や医療技師など多職種が連携して、検査・診療・早期離床、再発防止のためのリハビリテーションを一元的に行う心臓病センターの整備を進めました。

また、手術の安全性の向上や患者負担の軽減を図るため、県内では2台目となる手術支援ロボット「Hugo」を導入したほか、磁気共鳴画像診断装置などの医療機器を更新しました。

経営面においては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症変更に伴い、従前のような感染症対応のための病床確保が不要となったことから、入院患者数が増加し、医業収益は前年度から増加したものの、感染症対応に伴う補助金の減少や医業費用の増加により、経常収支では388,136千円の損失を計上し、3年ぶりの赤字となりました。

業務実績においては、一般病床の入院延患者数は169,305人で一般病床利用率は83.8%（対数値目標比△3.7ポイント）、入院患者一人1日当たりの診療収入は71,292円（対数値目標比+2,492円）となりました。また、外来延患者数314,933人で外来患者一人1日当たりの診療収入は17,620円（対数値目標比+720円）となりました。

収益的収支においては、医業収益は18,849,181千円（対収支計画比△222,020千円）で、対前年度比1,216,424千円増加しました。一方、医業費用は19,276,668千円（対収支計画比+345,942千円）で、対前年度比756,430千円増加し、医業収支比率は97.8%となり対前年度比で2.6ポイント増加しました。なお、給与費は9,929,611千円（対収支計画比+114,637千円）、職員給与費対医業収益比率は52.7%（対数値目標比+1.2ポイント）、材料費は4,427,164千円（対収支計画比+317,164千円）、材料費対医業収益比率は23.5%（対数値目標比+1.9ポイント）となりました。

また、経常収益19,864,911千円（対収支計画比△45,500千円）、経常費用は20,253,047千円（対収支計画比+366,507千円）で、経常収支比率は98.1%（対数値目標比△2.0ポイント）となりました。

心臓病センターの整備

【基本的取組1－2 高度専門医療の提供】 心疾患患者の診療機能の充実

心不全患者の再入院予防のため、令和6年5月の開設を目指し、心臓病センターの整備を進めました。

同センターには、心臓リハビリ室を新設するとともに、点在していた外来と検査機能を集約し、外来受診時において、運動療法に取り組めるようにしました。

また、看護師と薬剤師計14人が心不全患者サポートのための資格「心不全療養指導士」を取得するなど、人材育成にも取り組み、心臓リハビリテーション指導士や管理栄養士などの多職種で連携し、退院後の心不全の再発・再入院を予防します。

トピックス

令和6年5月13日に心臓病センターをオープンし、受診患者はオープン以降、令和6年8月までで前年度から約5%増加しています。

手術支援ロボットの導入

【基本的取組1－2 高度専門医療の提供】 がん治療の充実

ロボット手術は、傷口が小さく、出血も少なく済み、患者の身体への負担が軽減され、より安全な医療が提供できることから、県内では2例目、東海3県の公立病院では初となる、手術支援ロボット「Hugo」を導入しました。当該ロボットは、アームが独立しており、患者の体格や手術中の体位に応じて位置を調整可能であり、泌尿器科や産婦人科、消化器外科の手術での活用が期待されます。令和5年度にロボットの操作研修や手術見学を行うなど、ロボット手術の実施に向けた準備を進めました。

トピックス

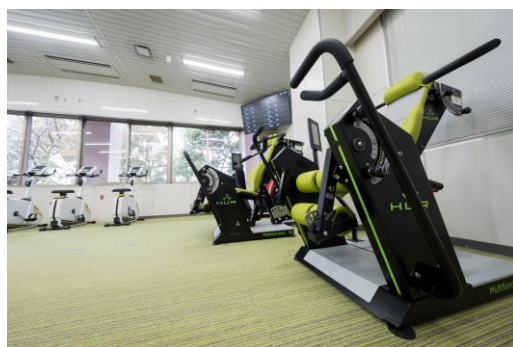
ロボット手術の経験が豊富な泌尿器科医師をこの4月に採用し、令和6年4月17日に1症例目の前立腺がんの手術を実施しました。

心臓病センターの
詳細動画はこちらへ ▶
(市民病院YouTubeより)

心臓病センター受付



心臓リハビリ室



手術支援ロボットの
詳細動画はこちらへ ▶
(市民病院YouTubeより)

手術支援ロボット「Hugo」



操作パネルは術者以外も確認できる



能登半島地震へのDMAT派遣

【基本的取組2-2 災害時医療の充実】

災害時の医療機能の維持

当院の災害派遣医療チーム（DMAT：Disaster Medical Assistance Team）は医師、看護師、業務調整員（薬剤師、放射線技師、理学療法士）で構成され、地震などの自然災害や航空機事故などの集団災害において、急性期（おおむね48時間以内）に活動する専門的な訓練を受けた医療チームです。

令和6年1月1日に発災した能登半島地震では、直後の1月2日からDMATを派遣し、公立能登総合病院を本部として、福祉施設の巡回・情報収集や近隣の医療機関の支援を行いました。また、県営名古屋空港などで被災した施設利用者の搬送・受入れを行いました。

トピックス

延べ15日にわたり、2分隊9人を派遣しました。

派遣された病院の内部の様子



亀裂の入った道路



医療情報のバックアップ体制の構築

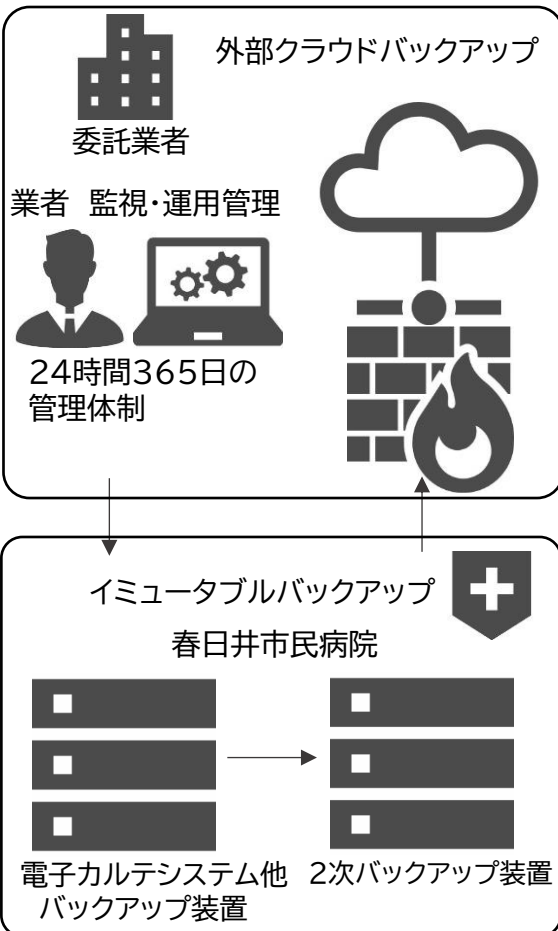
【基本的取組2-2 災害時医療の充実】

医療情報セキュリティの強化

近年、ランサムウェア（身代金要求型ウイルス）による診療停止により、病院及び地域医療に甚大な被害を及ぼす事例が増加しています。これらに対するセキュリティ対策として、データを固定化、変更不可能とし、削除や暗号化などの変更を阻止してデータを保護する「イミュータブルバックアップ」を行い、外部のクラウドにデータを保存するとともに、自然災害発生時などのネットワーク回線に不具合が生じた場合にも備え、院内にも2次バックアップ装置を設置しました。

トピックス

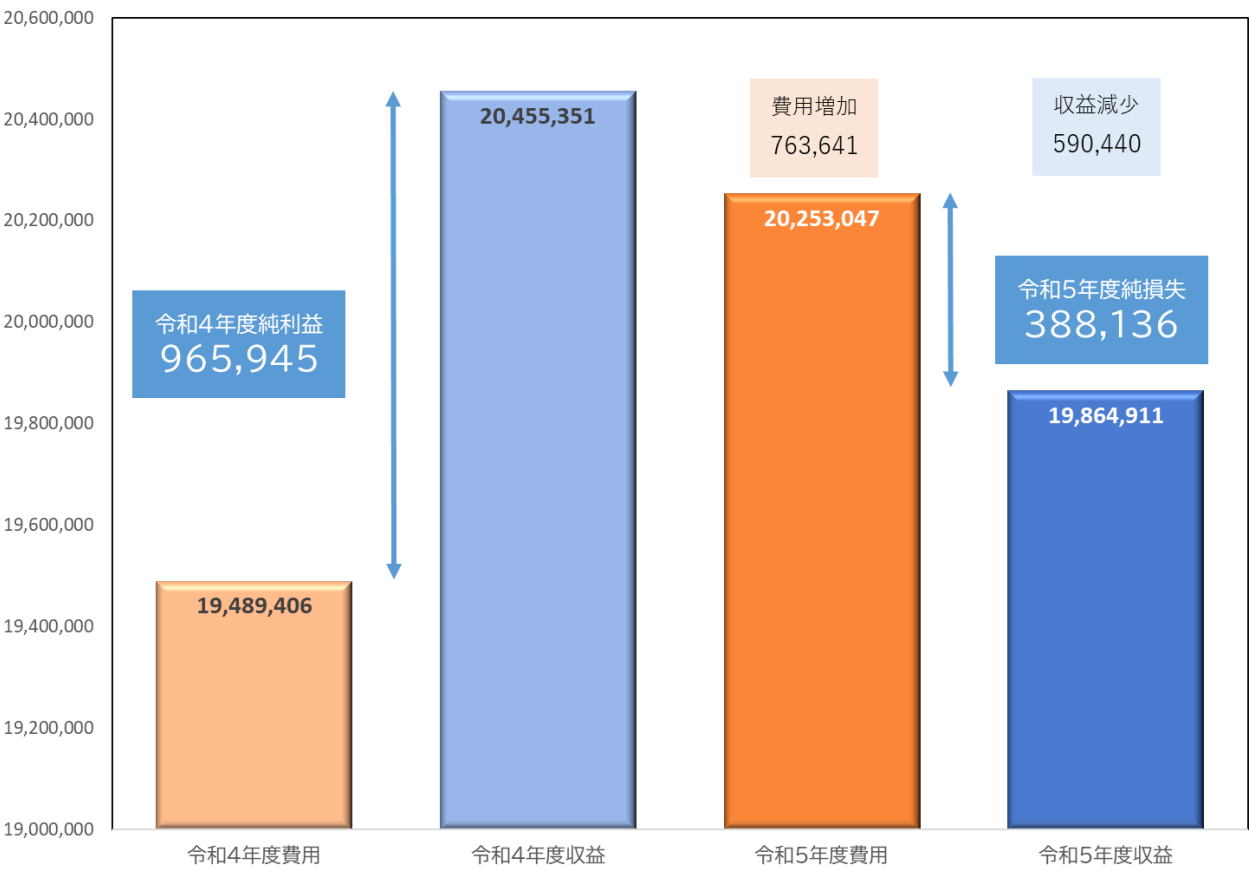
令和6年度には、ウイルスの侵入などのネットワーク内の異常な挙動を監視するシステムの導入を計画しており、さらなるセキュリティの強化を図る予定です。



令和5年度決算概要

収益・費用前年度決算比較

単位:千円



収益は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症変更により、従来のような病床確保が不要となり、入院収益が約9.6億円増加したものの、コロナ関連補助金が前年度から約16億円の減少。

一方、費用は人事院勧告に基づく給与改定に伴う給与費や高額な抗がん剤の使用による材料費の増加などに伴い、約7.6億円増加したことから、結果、約3.9億円の赤字となりました。

単位:千円

	令和5年度	令和4年度	増減	増減比率
病院事業収益	19,864,911	20,455,351	▲ 590,440	▲ 2.9%
うち 入院収益	12,076,750	11,113,555	963,195	8.7%
うち 外来収益	5,549,107	5,346,012	203,095	3.8%
コロナ関連補助金	185,122	1,784,272	▲ 1,599,150	▲ 89.6%
病院事業費用	20,253,047	19,489,406	763,641	3.9%
うち 給与費	9,929,611	9,740,533	189,078	1.9%
うち 材料費	4,427,164	4,125,289	301,875	7.3%
うち 経費	3,478,675	3,342,999	135,676	4.1%

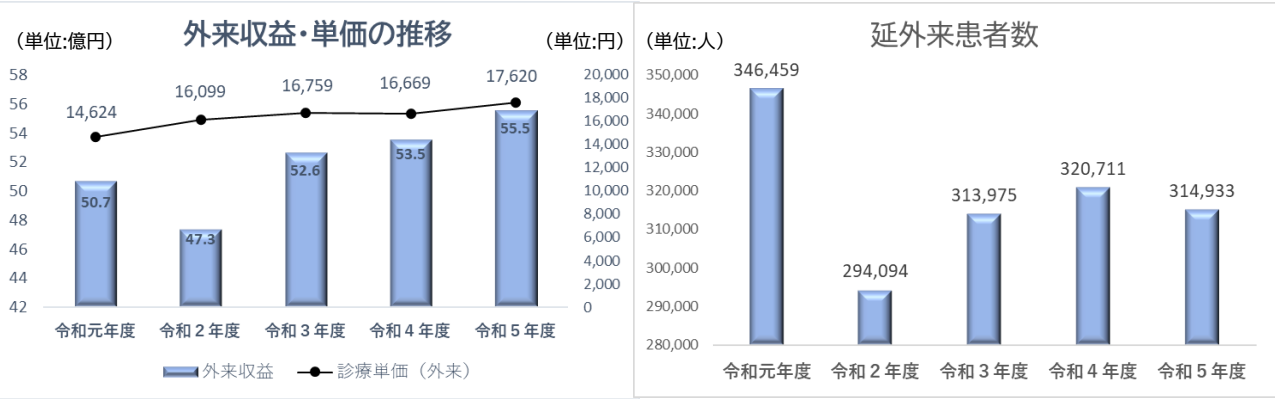
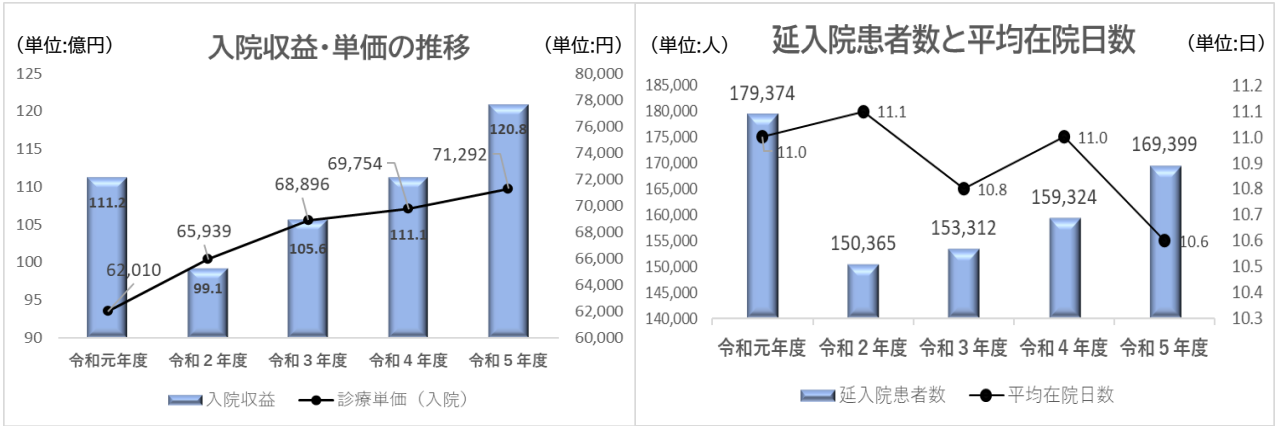
令和5年度決算概要

主な診療実績前年度比較

入院関連	令和5年度		令和4年度	増減
診療単価	71,292円	▲	69,754円	1,538円
延患者数	169,399人	▲	159,324人	10,075人
1日平均患者数	462.6人	▲	436.4人	26.2人
病床利用率	83.8%	▲	79.1%	4.7P
平均在院日数	10.6日	▲	11.0日	△ 0.4日

外来関連	令和5年度		令和4年度	増減
診療単価	17,620円	▲	16,669円	951円
延患者数	314,933人	▲	320,711人	△ 5,778人
1日平均患者数	1,296.0人	▲	1,319.8人	△ 23.8人

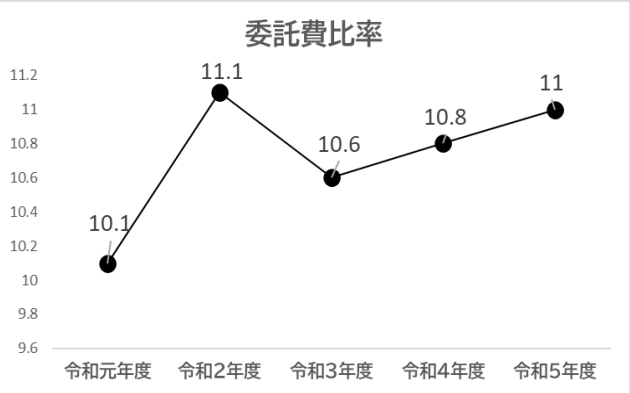
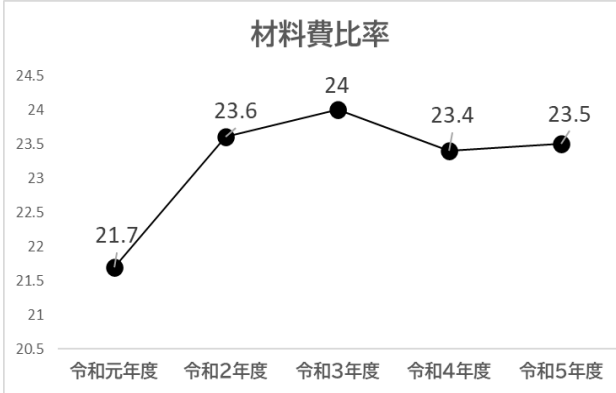
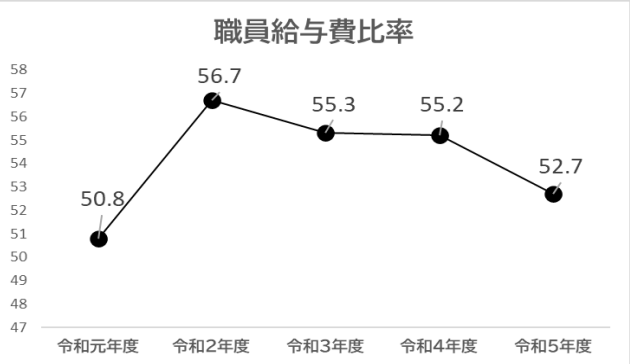
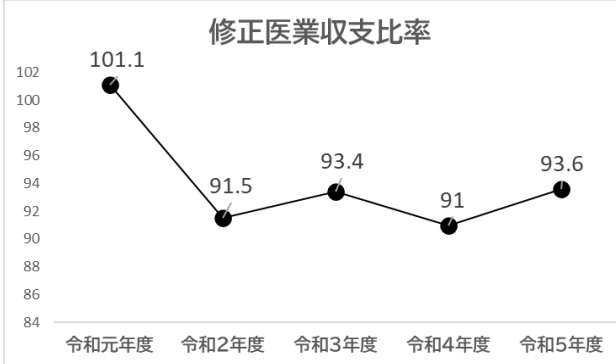
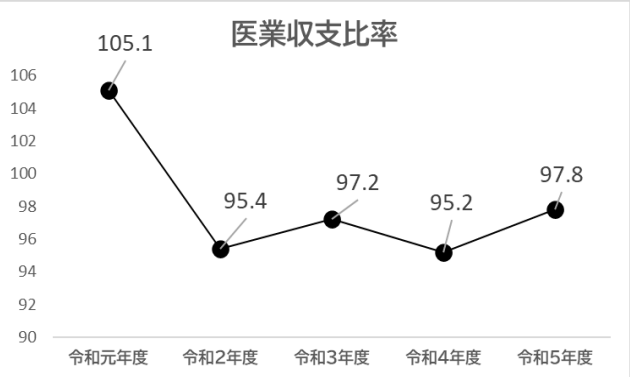
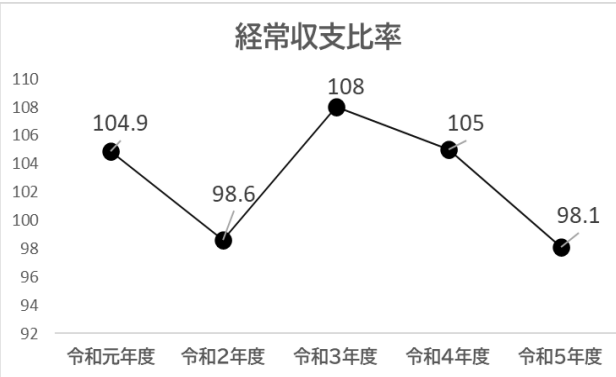
稼働状況等	令和5年度		令和4年度	増減
手術件数	6,534件	▲	6,059件	475件
紹介率	87.3%	▲	74.7%	12.6P
逆紹介率	109.3%	▲	101.0%	8.3P



令和5年度決算概要

主な経営指標前年度比較

区分	令和5年度		令和4年度	増減
経常収支比率	98.1%	↘	105.0%	△ 6.9P
医業収支比率	97.8%	↘	95.2%	2.6P
修正医業収支比率	93.6%	↘	91.0%	2.6P
職員給与費比率	52.7%	↗	55.2%	△ 2.5P
材料費比率	23.5%	↘	23.4%	0.1P
委託費比率	11.0%	↘	10.8%	0.2P



第2節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比

指標名称		(計画)	(実績)	(差)
経常収支比率 (経常収益÷経常費用×100)	(%)	100.1	98.1	↓ △ 2.0P
医業収支比率 (医業収益÷医業費用×100)	(%)	100.7	97.8	↓ △ 2.9P
修正医業収支比率 ((医業収益 - 一般会計負担金) ÷ 医業費用 × 100)	(%)	96.6	93.6	↓ △ 3.0P
職員給与費対医業収益比率 (給与費÷医業収益×100)	(%)	51.5	52.7	↓ 1.2P
材料費対医業収益比率 (材料費÷医業収益×100)	(%)	21.6	23.5	↓ 1.9P
委託費対医業収益比率 (委託料÷医業収益×100)	(%)	10.5	11.0	↓ 0.5P
一般病床利用率	(%)	87.5	83.8	↓ △ 3.7P
延入院患者数(一般)	(人)	176,700	169,305	↓ △ 7,395
1日当たり外来患者数	(人)	1,390	1,296	↓ △ 94
入院患者1人1日 当たり診療収入	(円)	68,800	71,292	↑ 2,492
外来患者1人1日 当たり診療収入	(円)	16,900	17,620	↑ 720
クリニカルパス適用率	(%)	49.5	49.3	↓ △ 0.2P
現金預金等残高 (現金預金+有価証券+貸付金)	(百万円)	8,649	8,656	↑ 7
資金の不足額	(千円)	0	0	0
資金不足比率 (資金の不足額÷医業収益 ×100)	(%)	—	—	—
平均在院日数	(日)	10.7	10.6	↓ △ 0.1P
紹介率	(%)	82.0	87.3	↑ 5.3P
逆紹介率	(%)	100.0	109.3	↑ 9.3P

第2節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比

収益的収支

単位:千円

		(計画)	(実績)	(差)	主な増減要因
収 入	1. 医 業 収 益 a	19,071,201	18,849,181	△ 222,020	
	(1) 診 療 収 益	17,865,273	17,625,857	△ 239,416	
	入 院 収 益	12,156,960	12,076,750	△ 80,210	患者数の減
	外 来 収 益	5,708,313	5,549,107	△ 159,206	患者数の減
	(2) そ の 他 医 業 収 益	1,205,928	1,223,324	17,396	
	うち一般会計負担金	783,328	811,445	28,117	
	2. 医 業 外 収 益 b	839,210	1,015,730	176,520	
	(1) 一 般 会 計 補 助 金	489,471	461,354	△ 28,117	
	(2) 国 (県) 補 助 金	25,500	228,252	202,752	
	(3) 長 期 前 受 金 戻 入	132,739	132,515	△ 224	
	(4) そ の 他 医 業 外 収 益	191,500	193,609	2,109	
経 常 収 益 (a + b) (A)		19,910,411	19,864,911	△ 45,500	
支 出	1. 医 業 費 用 c	18,930,726	19,276,668	345,942	
	(1) 給 与 費	9,814,974	9,929,611	114,637	
	給 料	3,726,267	3,794,126	67,859	給与改定による増
	職 員 手 当	3,308,671	3,295,776	△ 12,895	コロナ関連手当の減
	そ の 他	2,780,036	2,839,709	59,673	
	(2) 材 料 費	4,110,000	4,427,164	317,164	
	う ち 薬 品 費	2,212,000	2,425,923	213,923	高額な抗がん剤の増
	(3) 経 費	3,556,204	3,478,675	△ 77,529	光熱水費の減
	う ち 委 託 料	2,000,000	2,070,152	70,152	
	(4) 減 価 償 却 費	1,365,398	1,362,036	△ 3,362	
	(5) そ の 他	84,150	79,182	△ 4,968	
	2. 医 業 外 費 用 d	955,814	976,379	20,565	
	(1) 支 払 利 息	92,163	92,163	0	
	(2) そ の 他	863,651	884,216	20,565	
経 常 費 用 (c + d) (B)		19,886,540	20,253,047	366,507	
経 常 損 益 (A) - (B) (C)		23,871	△ 388,136	△ 412,007	
特 別 損 益	1. 特 別 利 益 (D)	0	0	0	
	2. 特 別 損 失 (E)	0	0	0	
	特 別 損 益 (D) - (E) (F)	0	0	0	
純 損 益 (C) + (F)		23,871	△ 388,136	△ 412,007	
累 積 欠 損 金		1,410,839	1,443,519	32,680	

資本的収支

単位:千円

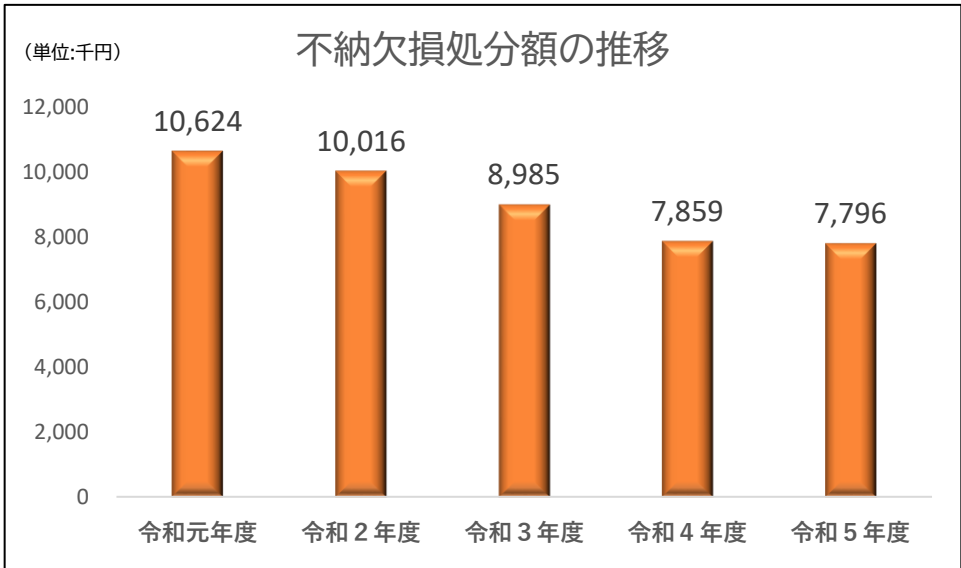
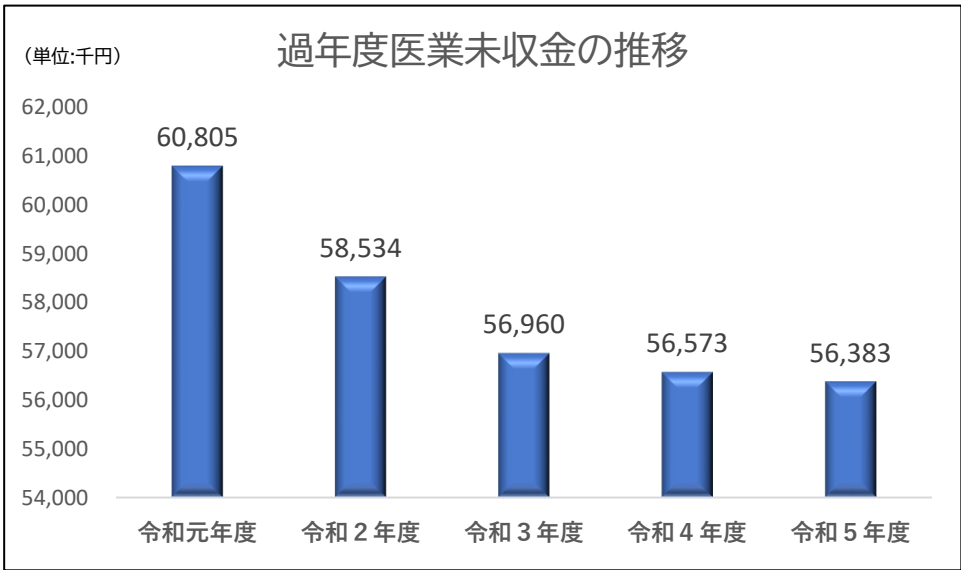
		(計画)	(実績)	(差)	
収 入	1. 一 般 会 計 出 資 金	290,233	290,233	0	
	2. そ の 他	0	4,767	4,767	看護修学資金返還金
	収 入 計 (A)	290,233	295,000	4,767	
支 出	1. 建 設 改 良 費	856,863	840,024	△ 16,839	
	2. 企 業 債 償 還 金	1,014,267	1,014,267	0	
	3. 投 資	38,400	34,200	△ 4,200	
	支 出 計 (B)	1,909,530	1,888,491	△ 21,039	
差 引 不 足 額 (A) - (B)		△ 1,619,297	△ 1,593,491	25,806	

第2節 数値目標及び収支計画 計画、実績対比

職員の状況(各年度4月1日現在)

職種	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	(令和9年度計画)
医 師	146人	145 人	145人	153人	161人	154人
薬 剤 師	37人	39 人	40人	43人	39人	40人
医 療 技 師	126人	135 人	136人	137人	142人	139人
看 護 職 員	571人	590 人	593人	582人	577人	594人
行 政 職 員	39人	41 人	41人	42人	42人	43人
労 務 職 員	3人	2 人	2人	1人	1人	2人
計	922人	952 人	957人	958人	962人	972人

職員数は、研修医、専攻医(令和2年度まで)を除き、正規職員の職員数



第3節 具体的取組の状況

取組方針1 地域で果たす医療機能の充実

基本的取組1-1 救急医療の充実

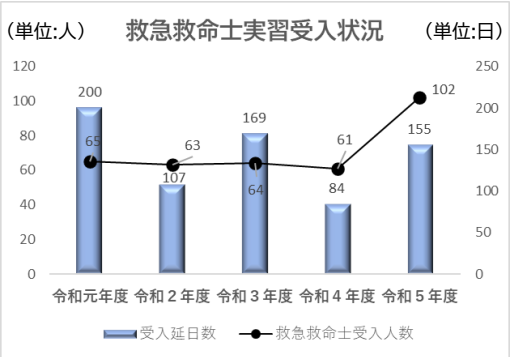
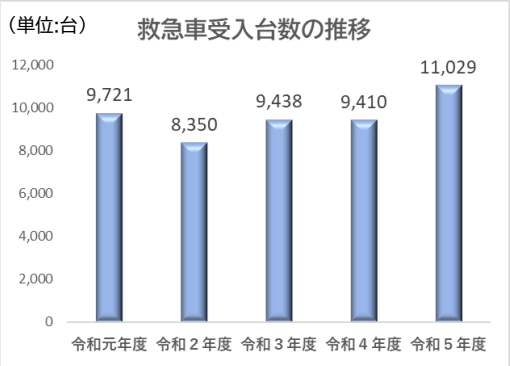
救命救急センターの充実

救急患者や重症患者に対し、迅速に対応するため、平日夜間、休日の脳卒中・心疾患、小児・周産期の専門、救急医療提供体制を堅持しました。

また、救急患者や重症患者に対し迅速に対応するため、休日・平日夜間急病診療所と日常的に連携を取り、連絡体制の確保及び大型連休（GW、お盆、年末年始）の医師等の診療体制の確認をしています。

令和5年度の主な取組み

- ・救急救命士の採用
- ・救急領域の認定看護師の育成
- ・消防機関との連携

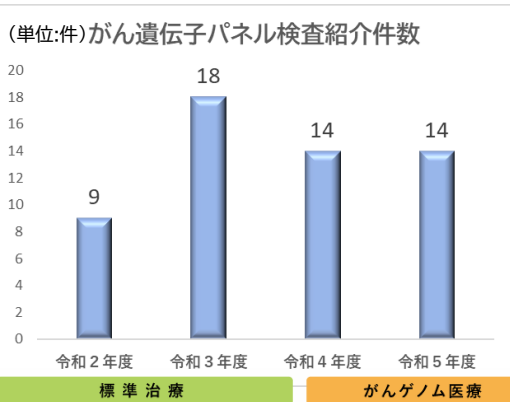


基本的取組1-2 高度専門医療の提供 がん治療の充実

乳がん・卵巣がんなどに遺伝的要因が影響しているかどうかを遺伝子検査で診断し、個々の患者に適した治療を行うほか、遺伝子パネル検査を希望する患者をがんゲノム医療中核拠点病院やがんゲノム医療拠点病院へ紹介しています。

令和5年度の主な取組み

- ・がんゲノム医療中核拠点病院等への紹介体制と診療体制の継続
- ・手術支援ロボットの導入



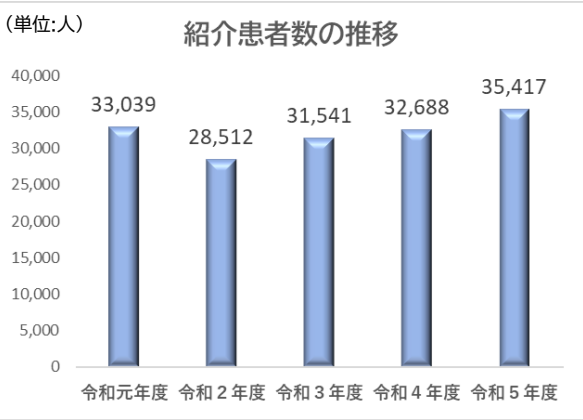
がん情報サービスホームページ
「がんゲノム医療 もっと詳しく」から引用

第3節 具体的取組の状況

基本的取組1－3 地域完結型医療の推進 地域医療連携の推進

当院の医師と事務職員が地域の医療機関を訪問し、各診療科の強みや紹介してほしい疾患等をPRするとともに、要望や意見を聴取し対応するなど顔の見える関係のもと、信頼関係の向上に努めています。

また、回復期病院を始めとした近隣医療機関や訪問看護ステーションなど医療・介護機関との連携推進のため、研修会等において情報共有及び意見交換を行っています。



ふたり主治医制の推進

当院では、患者一人に対して、病院の医師と地域のかかりつけ医が連携して継続的に治療を行う「ふたり主治医制」を推進しています。そのためのツールとして、「Tri-netかすがい」、「かすがいLiner」を活用しています。

「Tri-netかすがい」は、紹介元の医療機関が紹介患者の診療や検査の状況を共有できるシステムです。CTやMRI等の検査予約をオンラインで完結できます。

「かすがいLiner」は、当院から医療機関へ逆紹介した患者について、紹介先の医療機関に対して、当院の受診予定日が近づいたことを文書で通知します。

当院と春日井市民病院のふたりの主治医を持ちましょう！

当院は、春日井市民病院との機能分担を推進し、協力し合って質の高い医療を提供できるよう努めています。

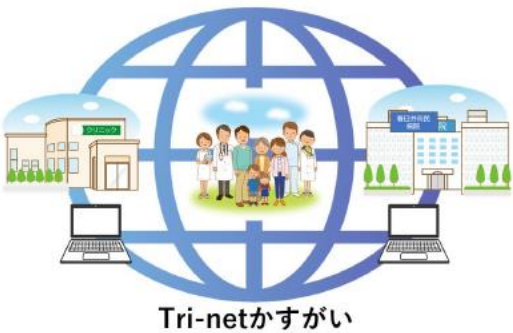
当院(かかりつけ医療機関)
日頃の健康管理や
定期的な診療を担当します

連携

春日井市民病院での治療が
落ち着いたら、当院を受診しよう

春日井市民病院
高度で専門的な医療や
入院治療を担当します

令和4年11月



地域包括ケアシステムの推進

在宅療養への対応を強化するため、地域の医療・介護従事者の資質向上に寄与することを目的として、当院が備えている人的資源を活用した研修会を開催しました。

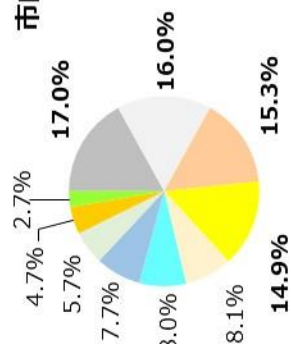
令和5年度の主な取組み

- ・地域の医療機関への訪問
- ・Tri-netかすがい、かすがいLinerの活用
- ・診療科のご案内の発行
- ・地域連携研修会の開催

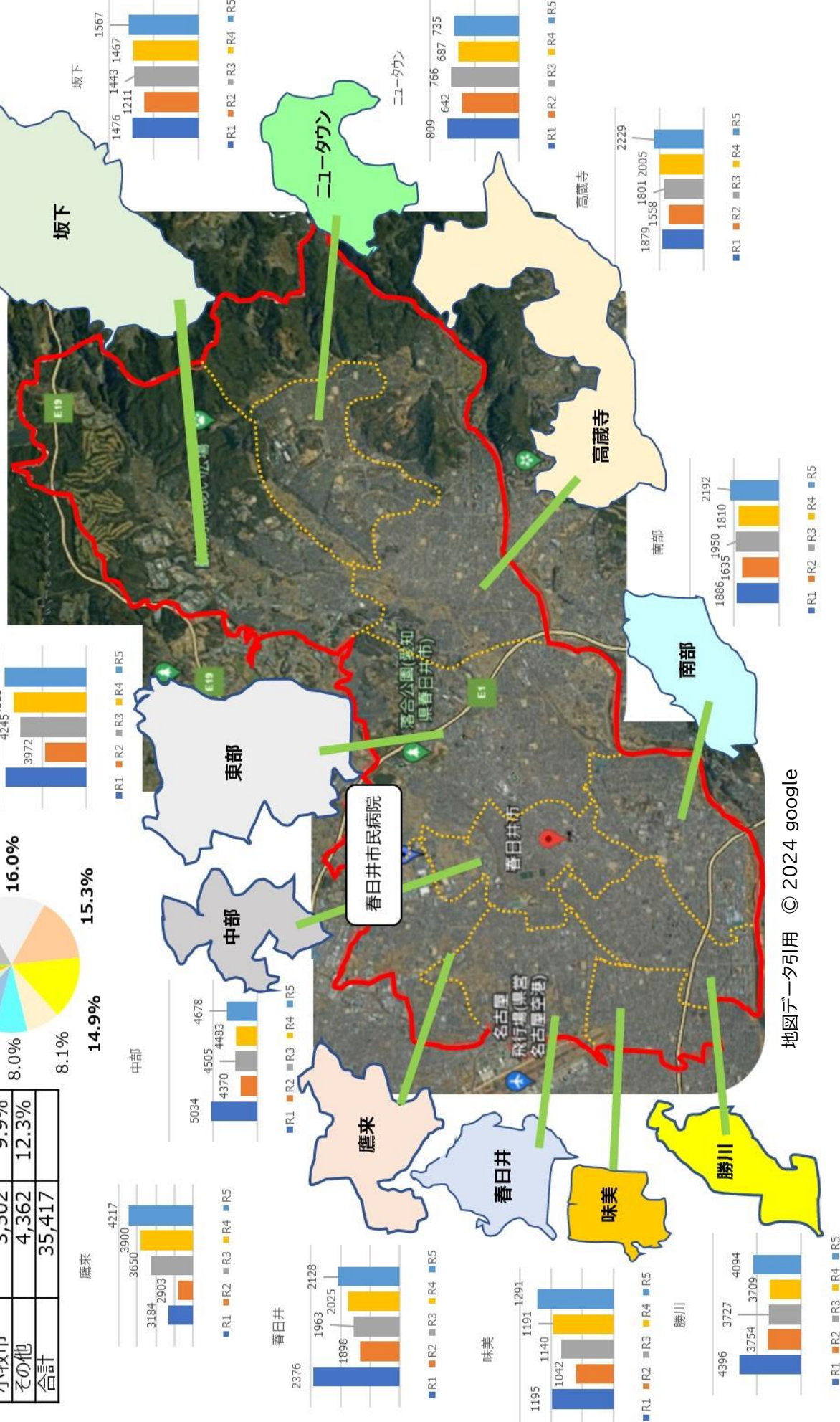


医療機関所在地	令和5年度 紹介患者数	割合
春日井市	27,553	77.8%
小牧市	3,502	9.9%
その他	4,362	12.3%
合計	35,417	

市内地区別割合



- 東部
- 春日井
- 鷹来
- 坂下
- 勝川
- 味美
- ニュータウン
- 高蔵寺



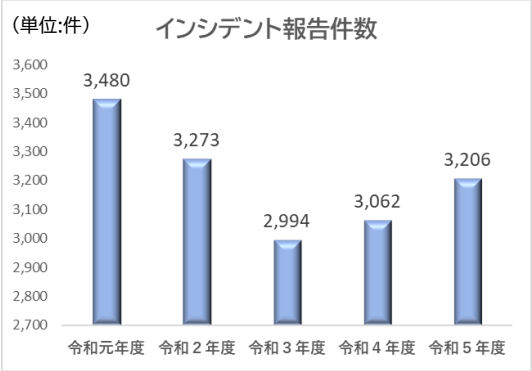
第3節 具体的取組の状況

取組方針2 市民の立場に立った医療サービスの提供

基本的取組2-1 安全・安心な医療の提供

医療安全意識の向上

職員の安全意識向上のため、毎月第3週を医療安全強化週間と定め、全職員へ安全意識の啓発をしています。
また、病棟等で発生した医療事故につながりかねない出来事（インシデント）を報告書としてまとめ、これらの事例を分析し、類似するインシデントの発生や医療事故・医療過誤の発生を未然に防ぐため、業務マニュアルへ反映して周知しています。



医療安全強化週間の標語の例

令和5年度の主な取組み

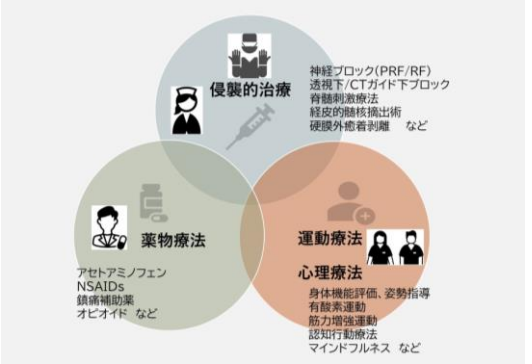
- ・安全推進ワーキングの開催
- ・職員全体研修の開催
- ・インシデント報告に基づく業務マニュアルの改定



チーム医療の推進

令和6年1月から、麻酔科医師が痛みを専門的に診る「ペインクリニック外来」を開設しました。薬物療法、神経ブロックなどを含むインターベンショナル治療、リハビリテーションなどの運動療法、認知行動療法などの心理療法を組み合わせ、患者一人ひとりにあった治療を行います。同外来では、多職種のチームで連携して診療にあたっています。

ペインクリニック外来の特色



ペインクリニックチーム



令和5年度の主な取組み

- ・NST(栄養サポート)、緩和ケア、感染対策、EOL（人生の最終段階）ケア、糖尿病チームなどの活動を継続

第3節 具体的取組の状況

基本的取組2－2 災害時医療の充実

災害時の医療機能の維持

毎年防災訓練を実施しており、災害対策本部立ち上げ訓練、トリアージ訓練などを実施しています。

また、訓練回数を増やし、幅広く職員が参加できるように小規模訓練を実施しています。

地域や広域の医療機関等の支援を行う体制として、DMAT 2 隊を設置しており、県営名古屋空港での広域災害を想定した訓練など、様々な災害を想定した訓練に参加しています。

小規模訓練



消火訓練



令和5年度の主な取組み

- ・DMAT技能維持訓練への参加
- ・火災に対応した防災訓練の実施
- ・能登半島地震に係る石川県へのDMAT派遣
- ・東日本大震災被災病院の医師による講演

取組方針3 健全な経営の確保

基本的取組3－1 医療スタッフの確保・育成 勤務環境の改善

令和 6 年 4 月 1 日から医師の時間外労働の上限規制が適用されることから、医師業務の他職種へのタスク・シフト／シェアを進めるため、放射線技師等が必要な研修を受講しました。

また、愛知県から特定地域医療提供機関（B水準）と技能向上集中研修機関（C-1水準）の指定を受けました。

医療機関に適用される時間外労働時間の上限等

医療機関に適用する水準	年の上限時間	面接指導	休息時間の確保
A(一般労働者と同程度)	960時間	義務	努力義務
連携B(医師を派遣する病院)	1,860時間 ※2035年度末 を目標に終了		義務
B(救急医療等)			
C－1(臨床・専門研修)	1,860時間		
C－2(高度技能の修得研修)			

厚生労働省ホームページ
「医師の働き方改革概要」から引用

医師事務作業補助者による医師業務のサポート



令和5年度の主な取組み

- ・宿日直許可の取得、勤務体制の整備
- ・夕方夜間の看護補助者派遣の継続
- ・労働基準法第36条に基づく「時間外労働・休日労働に関する協定書」の締結

第3節 具体的取組の状況

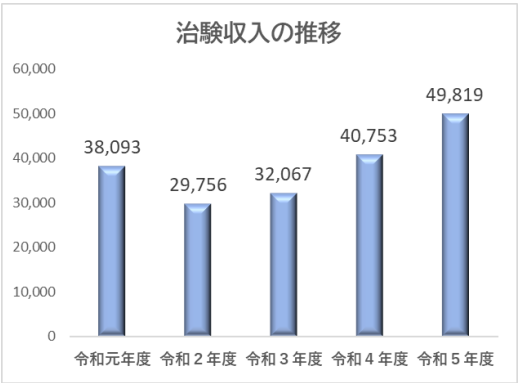
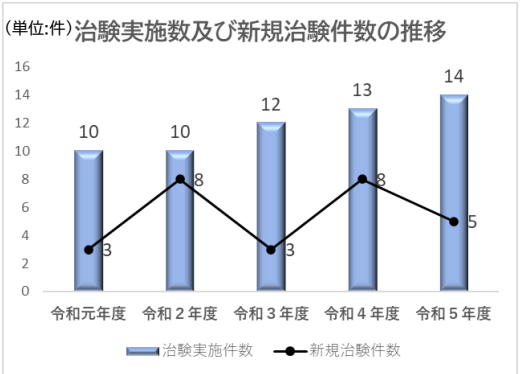
収益の確保及び経費の節減

○臨床研究推進センターの設立

医薬品等の治験について積極的に受託し、循環器内科や腎臓内科で多く実施しています。治験実施にあたっては、CRC（治験コーディネーター）が被験者の来院時対応などを支援しています。

その他、製薬メーカーからの製造販売後調査、副作用等調査の協力をしています。

また、臨床研究に係る倫理委員会の事務局として医師等の臨床研究の審査・承認を行っています。



令和5年度の主な取組み

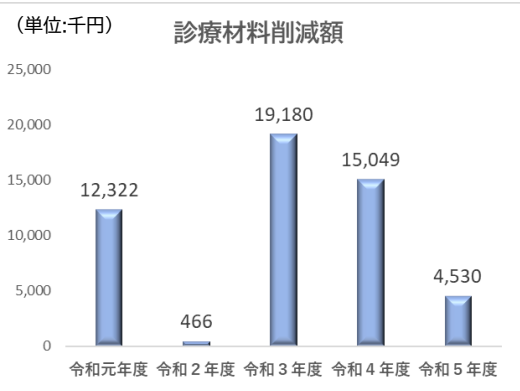
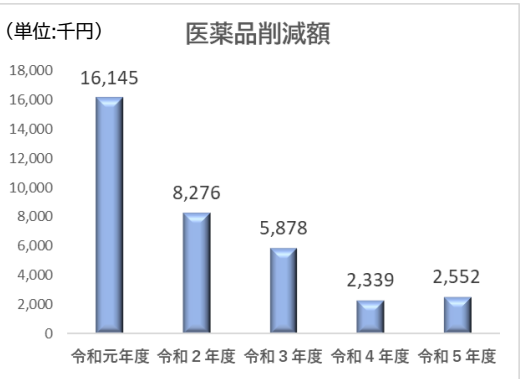
- ・センターの設立
- ・新規治験の受託
- ・医師等の臨床研究の審査・承認

○価格交渉による材料費の削減

全国の多数の医療機関が参加するベンチマーク事業に参加し、参加病院の中での自病院の購入価格を位置づけを確認し、購入価格の削減等に活用しています。

薬品は年2回、診療材料は随時価格の値引き交渉を実施するとともに、診療材料の一部の品目については、一定の数量を使用すると価格を引き下げる契約を結び、材料費を削減しています。薬品の購入に際して、高額な抗がん剤をバイオ後続品に切り替え、薬品費の削減につなげました。また、診療材料購入委員会及び医療機器物品購入審査委員会を適時開催し、診療材料の適正な在庫管理や購入する医療機器等の選定を進めました。

価格交渉による削減額の推移



令和5年度の主な取組み

- ・価格交渉による値引き
- ・先発品から後発品、バイオ後続品への切替え

第3節 具体的取組の状況

○ホームページなどの媒体を活用した情報発信の推進

広報春日井に当院の医療への取組み等に関する記事を掲載するとともに、当院の診療内容や取組み等を掲載した地域住民向けの病院新聞「さくら」や、地域の医療機関向けの病院情報誌「Trinity（トリニティ）」を各年3回発行したほか、市民公開講座の開催、健康救急フェスティバルへの参加を通じて当院の取組みをPRしました。

また、新たな企画として、小学生とその保護者を対象とした夏休み医療探検隊を開催しました。

市民公開講座



2023健康救急フェスティバル



人生会議啓発イベント



夏休み医療探検隊



夏休み医療探検隊の当日の様子は、こちらのQRコードから動画をご覧ください。



病院新聞「さくら」



病院情報誌「Trinity」



春日井市民病院の基本理念

春日井市民病院は自治体病院として地域の医療にかかわる要望に誠実かつ不断に応えることを存立の意義とする。

基本方針

- 1 人権の尊重によって築かれる相互の信頼のもとに、医療を受けられる方の意思が反映された医療を行います。
- 2 正当な根拠に基づく良質で高水準の医療を効率的に行うために絶えず研鑽します。
- 3 急性期医療の拡充と専門医療の推進に努めます。
- 4 地域の基幹病院として、医療機関、介護サービス事業者、保健・福祉行政との連携を密にして地域完結型医療を推進します。
- 5 公営企業として健全な経営に努めます。

